

※はい、いいえの真ん中チェックは、両方に1票ずつ入っています。

	チェック項目	はい	いいえ	どちらとも いえない	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			・設備基準を満たしており、保育園と共同での広い園庭もある。ホップ棟内は、扉で区切り個室を作ることできる。 ・保育園との統合保育を行っており、仲間と交流しながら療育を行える良さもあれば、集団が大きくなりやすいところもある。集団の保育と個別的保育とをバランスよく組み合わせながら療育を行っているよう工夫している。
	2 職員の配置数は適切であるか	○			・基準は満たしている。障がい特性も多様化しており、個々のニーズに応じていくには工夫と職員間の連携が必要である。活動内容に応じた個々の課題を明確化し、職員間で共有していくと共に、職員皆で個々のニーズに応じた対応ができるための工夫を考えあていきたい。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	○			・必要に応じて段差を積極的に利用し、子どもの危機管理能力の向上につなげている。 ・自分の物の置き場所が分かりやすいよう、視覚の手がかり(本人のマーク)を使用することもある。 ・車いす用のスロープがあるが、使いにくい状態になっていたときがあったので改善をした。 ・集中が途切れやすいお子さんには、生活の導線が分かりやすくなるよう工夫をしている。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	○			・生活空間に、季節を感じられる飾りつけを意識して行っている。 ・活動に応じて部屋を区切り、個別のスペースを作ることができる。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○			・職員間で振り返りの時間を確保できるよう、シフトに組み込み対応してきた。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			・年に1回自己評価を行い、結果について職員間で話し合い、改善策を検討し、茶話会等で保護者に報告をしている。 ・自己評価については、ホームページで公開している。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	○			・2019年度に第三者評価を実施した。その際に指導していただいたことを、業務改善につなげてきた。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			・資質向上計画にて、職員一人一人が自分の目標をもって研修に参加していけるよう働きかけている。
適切な支援	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○			・1年に一度はアセスメントを行い、子どもの様子を把握するとともに、利用者や保護者の希望等を共有し、課題を分析したうえで支援計画に活かしている。
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			・一人一人の発達段階を把握できるよう、事業所内で統一したアセスメントツールを使用している。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	○			
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○			・半年に一度のモニタリング会議以外にも、定期的に職員間でモニタリングを行い、子どもの発達に応じた計画になっているのか振り返りながら、支援計画に沿った支援が行えるよう心掛けている。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			・事業所内の職員同士で話し合うだけでなく、統合保育を行っている保育園職員とも相談し合う時間を確保し、集団的に行う活動と、個別でじっくり行う活動など、狙いを確認しながらチームで計画立案を行っている。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			・季節に合わせた行事や自然体験など、子ども一人一人に合わせた参加の仕方を工夫しながら、様々な活動を行えるよう計画している。 ・次年度は制作活動の充実をはかり、個々の力の発揮につなげていきたい。 ・いろんな立場の職員から意見をもらい、活動内容を検討していく。

※はい、いいえの真ん中チェックは、両方に1票ずつ入っています。

		チェック項目	はい	いいえ	どちらとも いいない	工夫している点、課題や改善すべき点など
の 提 供	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて児童発達支援計画を作成しているか	○			・統合保育の良さを生かし、クラスの子と関わる機会を大事にしつつ、必要に応じて、個別の活動・少人数の活動を計画している。また、保育園との併設を生かし、3つの仲間関係(憧れる大きい子・同じ発達の子・自分より小さい子)を持つよう、工夫している。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			・複数の職員で担当するため、打ち合わせや申し送りが重要になっている。メールを利用したり、週案を立てるなど工夫をしながら、療育が始まる前までにはその日の療育について情報共有ができるようにしている。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			・各担当者は、その日の支援の振り返りを毎日記録に残している。その日のうちに共有すべきことは、職員間で共有するようにしているが、職員の勤務時間も違うため、細かな支援の振り返りをその日のうちに行うことは難しいところもあるが、メール等も使用しながら、次の日の支援が始まる前までには共有ができるようにしている。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			・その日の支援の内容や利用者様の様子を記録に残している。記録をもとに、モニタリングなどの支援の評価や子どもの捉えなどにつなげている。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	○			・半年に1回以上のモニタリングを行い、支援内容や子どもの様子について検討し合い、支援計画の見直しを行っている。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			・担当者会議がある際には、子どもの状況がよくわかっている職員が出席し、情報共有を行っている。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか				・対象となる児童がいない。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか				・対象となる児童がいない。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか				・対象となる児童がいない。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか				・対象となる児童がいない。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○			・就学に向けて、学校や教育委員会からの訪問を受け入れている。また、電話や書面で情報交換をしている。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○			・豊川市内の児童発達支援事業所が集まる共有会議に参加しているが、会議の開催はとてま少なくなっている。必要な情報は、メールで共有をしている。 ・来年度は、「障がい児等療育支援事業」での研修を受ける予定。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	○			・同法人内になる保育園と統合保育を行っており、日常的に障がいのない子どもとの活動が行われている。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	○			・豊川市内の児童発達支援事業所が集まる共有会議の代表者が子ども部会に参加し、各事業所で情報共有を行っている。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			・日々の送迎の際に、一日の様子を報告している。また、やりとりノートやメールを使用し、書面等でもその日の様子について情報共有を行っている。また、定期的に面談を行い、母だけでなく父にも面談に参加をしてもらい、子どもの課題等について共通理解を図っている。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	○			・必要に応じて母子通園を行っている。保育者の子どもへの関わり方を見て学んでもらい、また保護者の子どもとの関わり方を見せていただく中で、関わり方のコツなどを伝えている。母子通園の後には振り返りを行い、家庭での子育てに活かせるようにしている。 ・お仕事などで忙しい保護者の方には、お迎え前の短い時間を使って、母子通園をしていただいたこともあった。

※はい、いいえの真ん中チェックは、両方に1票ずつ入っています。

		チェック項目	はい	いいえ	どちらとも いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			・利用開始時に説明を行っている。また、変更等があった際は、その都度説明を行っている。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○			・定期的に面談を行い、支援計画について説明をし、保護者の同意を得ている。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			・6か月に1回は必ず面談を行い、保護者の話をしっかり聴く機会を持っている。 ・送迎時など、日頃から保護者と話す機会を意識的に持ち、保護者の様子の変化に気づいていけるようにしている。保護者の様子は職員間で共有し、必要に応じて職員側から声をかけ、保護者の話を聴く機会を持つようにしている。 ・やりとりノートを使用し、書面でのこまめなやりとりも行っている。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○			・定期的に茶話会を開催したり、行事などの活動に保護者の参加を促し、保護者同士の交流の場としている。
保護者への説明責任等	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			・契約時に、相談・苦情受付窓口や担当者、第三者委員などの設置を伝えている。相談や申し入れがあった際は、できるだけ迅速に職員間で状況確認をし、話し合いの場を持ち、解決していけるよう心掛けている。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○			・月に1回やまばとだよりを発行し、行事予定などを伝えている。普段とは違う活動については、随時お便りを作成し、活動のねらいや活動概要を伝えるようにしている。
	38	個人情報の取扱いに十分注意しているか			○	・書類は鍵のかかる書類棚で管理している。職員は、年度初めに守秘義務や書類の管理の仕方について周知をしている。 ・自己評価での保護者の方からの意見を踏まえ、個人情報の取扱いについて、再度職員間で確認し合っていく。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			・子どもについては、その子の発達に応じて分かりやすい言葉で伝えるなど工夫をしたり、視覚的な手立てを利用するなど配慮している。 ・保護者については、口頭だけでなく書面で伝えたり、保護者の様子に合わせて、時間にゆとりを持って丁寧に伝えるなどしている。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○			・感染症の状況を見ながら、行事等に地域の方を少しずつ招待できるようになってきた。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか			○	・緊急性の高いものからマニュアル整備や見直しをすすめている。整備が整い次第、職員や保護者に周知していく。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			・月に1回避難訓練を行っている。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	○			・年に一度、子どもの疾病や服薬状況、アレルギーや発作の有無などを再確認している。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか				・対象となる児童がいない。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			・ヒヤリハットがあった際は、すぐに関係職員、上長で検証と再発防止について話し合うようにしている。また、その内容を記録し、職員間でも共有するようにしている。職員会議等で、再度情報共有する場をもち、再発防止に努めている。 ・ヒヤリハットになる前のちょっとした出来事を共有することが大事であると職員間で共有し、毎月の会議の中で共有し合う時間を設け、分析対策を考えるようにしている。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			・児発管より、虐待防止に関する情報提供や研修を行っている。次年度は、児発管以外の職員が外部研修に参加できるようにする。 ・今年度より、虐待防止・身体拘束適正化委員会を設置し、運営を開始し始めた。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	○			・会議での共有・検討を行い、その結果を虐待防止委員会で共有・検討をし、面談で保護者の了承を得て、支援計画に記載するようにしている。